

## ヒメシジミ

(学名: *Plebejus argus*)

[チョウ目シジミチョウ科ヒメシジミ亜科]

ヒメシジミは町内でよく見られるシジミチョウで、翅裏は灰色地、後翅外周に沿ってオレンジ色の帯が入ります。ミヤマシジミ似ており、長らく混同されていました。翅裏のオレンジ帯の中にある黒斑に、水色の構造色があるのがミヤマシジミ、無いのがヒメシジミといった区別をします。年一化性で、卵で冬を越え、成虫は6～8月にかけて見られます。卵は食草(アザミ類・ヨモギ・ヤマボクチ、オオイタドリ)の根元近くの枯れ葉などに1つずつ産みつけられます。



山地性が強いことに加え環境が悪いとこの蝶を見ることができません。只見町では、ヨモギの生える草原で見ることが出来ます。

現在は開発によって多くの地域で絶滅しており、本州に存在する亜種 (*P. a. micrargus*) は環境省の準絶滅危惧種に指定されています。

### 企画展示

#### ブナセンター講座

##### ○水辺林の生態とその役割

講師: 崎尾均氏 (新潟大学教授)

日時: 8月3日(土) 13:30～15:00

場所: ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

受講には入館料(大人300円)が必要です。

#### 自然観察会

##### ○崎尾先生と歩くブナの天然林

講師: 崎尾均氏 ※予約が必要となります

日時: 8月4日(日) 10:00～14:00

場所: 木の根沢

参加費など詳細はお知らせ版に掲載します。

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています



▲上福井に生えたピロードモウズイカ

## この植物は 何でしょうか?

上福井の堀金太一さんから珍しい植物があるという情報を頂いたのでブナセンターで調べてもらったところ「ピロードモウズイカ」という植物である事が分かりました。

この植物はヨーロッパに原産する二年生植物で、成長すると高さ2メートル以上にもなるそうです。ヨーロッパでは古代から薬用として広く利用されており大部分の農作物に対しては大した害にならないという事でした。

町内で珍しいものを見つけた場合はお気軽にご連絡下さい。